

社会科学習指導略案(第1学年A組 男子9名, 女子11名)

令和元年7月12日(金) 3限

- 1 単元名：古代国家の歩みと東アジア世界
- 2 単元：摂関政治と文化の国風化
- 3 本時のねらい：『律令制から摂関政治までの流れを通して、国家権力の担い手の移り変わりを理解し、天皇から他者に国家権力が移行することを説明することができる。』（思考・判断・表現）
- 4 準備物：教科書、資料、ワークシート
- 5 本時の学習過程（第6時／全8時間）

生徒の学習活動及び発問・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】(方法) ※手立て
○前時のふり返り	
めあて：平安時代に入ってから政治と社会の変化に気づこう。	
○最澄と空海についての説明。 最澄・・・天台宗。比叡山の延暦寺。 空海・・・真言宗。高野山の金剛峰寺 ○唐のおとろえ 894年遣唐使の廃止（菅原道真が訴える） 唐が滅びて、宋が中国を統一し、朝鮮半島では新羅を高麗が滅ぼす。 ◎摂関政治について ①「藤原道長の時代に行われた『摂関政治』とは、どのような政治の進め方だったのか。」 （家系図を基にペアで考える。） ・娘を天皇のきさきとし、その子を次の天皇にした。 ・摂政と関白の地位を独占した政治。 ②「摂関政治が始まるまでの時代は、どのような政治を行っていたのだろうか。」 ・国のきまり（律令）をつくった。 ・権力を天皇に集中させた。 ○「『摂関政治』が行われるようになってから、藤原氏はどのように政治のしくみを変えたのだろうか。」 （①と②での答えを基に、グループとなり、考える。） ・他貴族を退けることで、地位を独占することができた。 ・天皇家と関係を築くことで摂政と関白を常に置くことができた。	・映像を交えながら、唐との交流が盛んに行われていたことに気付かせる。 ・唐が衰えてから、東アジアの方で大きな動きがあり、日本にも影響を与えたことに気付かせる。 ・教科書や資料を基に、摂関政治の定義と、それを実現させた藤原氏による具体的な取組について確認する。 ・前時まで学習した桓武天皇の政治をふりながら、律令制の政治のしくみを確認する。 ・①と②での考えを基に、律令制の政治のしくみから摂関政治はどう変化したのかについて考える。
山場：なるほど。摂関政治とは、天皇中心ではなく、藤原氏が権力を握り、政治をしていたんだ。 なるほど。権力は天皇から他者へと移行したんだ。	
<振り返り・まとめ> ○「藤原氏が、この時代になって摂関政治を行うことができるようになった理由を、国際関係と政治のしくみの変化から説明してみよう。」	・藤原氏の台頭には、国際関係も影響していることに気付かせる。